

第4節 剰余価値を隠蔽する諸関係

剰余価値の本質＝労働の _____ ・ _____ 労働の対象化

資本主義にはこの本質を隠蔽する諸関係が存在

(1) 労賃という形態による隠蔽

① 労賃＝労働の価格としての現象

労働力と労働との区別の重要性

労働＝価値の実態：労働自体は価値を _____

労働者に支払われる賃金

【理論】＝労働力商品の対価＝労働力商品の価値≠ _____ の対価

【現象】＝ _____ の価格：一定量の労働に対して支払われる一定量の貨幣

(a) 封建社会における必要労働と剰余労働

必要労働：自分に分与された土地で自分の生活のために行なう労働

剰余労働：領主の直営地で領主のために行なう労働

* 両者は時間的にも空間的にも明確に _____

(b) 資本主義社会における必要労働と剰余労働

労働日＝[必要労働時間＋剰余労働時間]

* 両者は時間的にも空間的にも分離されて _____

⇒賃金は労働 _____ に対する報酬として支払われる

賃金後払い制によるこの外観の _____

賃金後払い制：賃金を労働力商品の購入時ではなく労働終了(労働力商品の消費)後に支払う制度

② 多様な賃金支払い形態による隠蔽

(a) 時間賃金

時間当たりの労働の単価を設定し、働いた時間の長さに応じて賃金を支払う形態

[例]；労働力の1日の価値＝4,000円，1労働日の標準的労働時間＝8時間

労働の単価＝ _____ 円/h

6時間労働＝ _____ 円

8時間労働＝ _____ 円

10時間労働＝ _____ 円

⇒ { 剰余価値の本質の _____
資本による労働支配の _____

i) 不払い労働の隠蔽

賃金は労働_____すべてに対して支払われているかのように現象

ii) 不況時の賃金支払い額削減

不況時に生産を縮小せざるを得ない場合

[例] 1日の労働時間を6時間に短縮

商品交換の原則：1日 4,000 円の賃金

時間賃金制 ⇒ 6 時間分の賃金 = _____ 円

iii) 長時間労働の動機づけ

[例] 労働の単価 = _____ 円/h

時間外賃金 = _____ 円/h

⇒ 賃金増大のため労働者自ら _____ 労働を望む

(b) 出来高賃金

生産物 1 単位あたりの労働の単価を設定，労働者が生産した量に応じて賃金を支払う形態

[例] 労働力の 1 日の価値 = 4,000 円，1 労働日の標準的生産数量 = 10 個

労働の単価 = _____ 円/個

8 個生産 = _____ 円

10 個生産 = _____ 円

12 個生産 = _____ 円

⇒ { 剰余価値の本質の _____
資本による労働支配の _____

i) 不払い労働の隠蔽

賃金は 1 日の労働の成果 = 出来高 _____ に対して支払われるかのように現象

ii) 「労働の対価」という外観の強化

出来高(労働の成果)による _____ が必然的

iii) 労働者の分断

賃金の差 = 労働者の _____ を強調するシステム

iv) 労務管理業務の軽減

労働の質や _____ が賃金支払い形態自体によって制御

v) 労働強化と時間延長

労働者自身が賃金増大のための労働強化と時間延長を望むようになる

vi) 不良品などの損失負担の労働者への転嫁

一定品質以上の製品のみを _____ としてカウント

(2) 「資本の生産力」という外観による隠蔽

① 資本＝機械という表象

(a) 社会的生産力＝資本の生産力という外観

生産力発展の成果＝生産手段を所有する資本による _____ 価値の取得

(b) 機械制大工業と小生産者との生産力格差

{ 機械体系をもつ資本の優勢・存続
小生産者の没落

⇒機械体系のみが資本として存続し価値 _____ 可能

⇒機械体系それ自体が _____ という表象

(c) [資本＝機械] → [利潤] , [労働] → [賃金] という表象

優秀な機械体系⇒

資本家は _____ 剰余価値をめざして機械を導入し生産力の上昇を追及

⇒機械体系の所有者の利潤取得は当然という外観

[資本＝機械] が _____ を生むという意識が浸透

これに対応して

[労働] が _____ を生むという意識が浸透

(d) 生産力発展の本来的性格

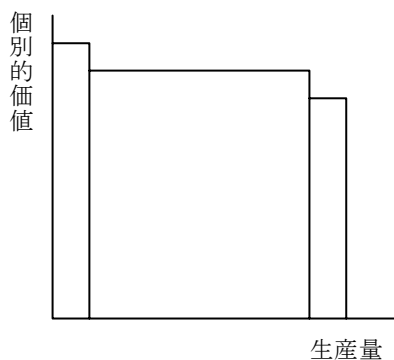
生産力の発展：集団的 _____ 労働

機械＝たんなる生産手段の 1 つ

② 特別剰余価値の本質

優秀な生産方法・機械の導入→特別剰余価値

特別剰余価値の源泉は？



旧生産方法をとる資本の_____

=同じ部門内で生産された剰余価値の_____

*優秀な生産方法 → 新しい剰余価値

③ 機械制大工業の生産力と資本家の機能

機械体系←人間の思考と_____の成果

資本家の機能

=大部分は資本主義的商品生産社会に由来

機械制大工業による生産力の発展

=「_____労働の生産力」

⇒その成果は_____取得されてしかるべきもの

資本によって排他的に取得されるのは？

*_____手段の所有関係に基づく

(3) 剰余価値の利潤への転化による隠蔽

① 剰余価値と利潤, 剰余価値率と利潤率

(a) $C + (V + M)$ と $(C + V) + M$

理論的・本質的には

生産物価値=価値_____部分C+価値生産物V+M

剰余価値M=価値生産物のうち_____資本に等しい価値を超える剰余

資本家からみれば

前貸資本(_____)を投じて_____を獲得したと認識

CとVをMを生む投下資本として同一視

剰余価値=生産物1単位あたりの_____価格(c+v)を超える超過分

=投下資本全体が生み出した_____と認識

(b) M/V と $M/(C+V)$

剰余価値率: 労働によって生み出された価値の資本家と労働者とへの_____比率

資本家の関心: 投下資本の増殖率=投下資本に対する剰余価値の比率_____ = 利潤率

{ 剰余価値⇒利潤
資本の価値増殖率⇒利潤率

⇒剰余価値が_____の価値増殖機能によって生み出されること隠蔽される

② 価値と生産価格

(a) 部門間資本移動と利潤率の均等化

資本家の行動目的＝資本の最大限の価値増殖

行動基準＝利潤率

⇒利潤率のより高い部門に自らの資本を投下

*利潤率を基準とする部門間_____を必然化

i) 部門別利潤率の差異

固定資本は存在せず，R を利潤，r を利潤率とすると

$$\left\{ \begin{array}{ll} \text{部門A} & 70C + 30V + 30M = 130 \quad r = ___\% \\ \text{部門B} & 50C + 50V + 50M = 150 \quad r = ___\% \\ \text{部門C} & 30C + 70V + 70M = 170 \quad r = ___\% \end{array} \right.$$

剰余価値率はすべて 100%

100 の資本を投下⇒利潤率は各部門で異なる

この状況で資本家はどのような行動をとるか？

ii) 部門間資本移動

より高い利潤率を求めて資本_____

低利潤率部門

資本の_____ → 生産量_____ → 価格_____ → 利潤率_____

資本の_____ → 生産量_____ → 価格_____ → 利潤率_____

高利潤率部門

iii) 利潤率の均等化

部門間資本移動とそれによもなう利潤率の変化⇒すべての部門で利潤率が均等化＝_____利潤率

$$\left\{ \begin{array}{ll} \text{部門A} & 70C + 30V + ___\text{R} = \quad r = ___\% \\ \text{部門B} & 50C + 50V + ___\text{R} = \quad r = ___\% \\ \text{部門C} & 30C + 70V + ___\text{R} = \quad r = ___\% \end{array} \right.$$

C : V が社会の平均と一致する部門以外では，価格は価値と一致しない

(b) 生産価格

利潤率均等化運動

⇒どのような部門に投資しても投下資本総額に対する剰余価値総額の割合

= 平均利潤率に応じた _____ 利潤を獲得

⇒ 価格：費用価格 + _____ 利潤 = 生産価格

{ 価値総額 = 生産価格総額
 { 剰余価値総額 = 利潤総額

* 価値は生産価格を _____ において規定

{ 個々の商品の価値 _____ 生産価格
 { 個別資本の生産する剰余価値額 _____ 獲得する利潤額

⇒ 剰余価値の本質の _____

③ 価値・生産価格と市場価格

(a) 総需要 = 総供給のもとでの市場価格の変動

個々の資本家の予想・判断による部門間資本移動や生産量の決定

→ 需給の _____

現実の商品の取引価格 = 市場価格：日々変動する需給関係によって決定

総需要 = 総供給のもとでは

ある部門での需要(供給) _____ = 他の部門での需要(供給) _____

需給不一致は _____ メカニズムによって均衡化

⇒ 市場価格 = 生産価格への収斂メカニズム

* 生産価格は市場価格が収斂する水準

(b) 総需要 ≠ 総供給のもとでの市場価格の変動

固定資本投下や資本蓄積が行なわれる場合、一般に総需要 _____ 総供給(販売と購買の _____)

⇒ 市場価格総額 _____ 生産価格総額

総需要 > 総供給 → 市場価格の全般的 _____

総需要 < 総供給 → 市場価格の全般的 _____

景気循環や部分的な需給変化 → 市場価格の変動

⇒ 市場利潤率の変動 ⇔ 資本家の予想や判断

⇒ 個別資本の利潤率の _____

⇒ 剰余価値の本質の隠蔽

* 生産価格は変動する市場価格の _____

(4) 擬制資本

平均利潤率の成立→投下資本額に応じた平均利潤の獲得

⇒資本の新しい概念の発生

{ 金融機関が融資した貨幣 ⇒利子
 株式会社が発行した株式 ⇒配当
 営利企業が発行した債券 ⇒利子
 地主が資本に貸した土地 ⇒地代

利子・配当・地代の源泉は？

*産業資本が生産した_____

⇒本来資本ではない単なる貨幣・株式・債券(社債や国債)・土地

→定期的に利得を生む資本としての性格

=_____資本

利子率=「資本の価格」としての性格→資金に対する需給によって変化

株式・債券や土地の理論価格=配当・利子・地代等の資本還元額

【例】1年間の地代=100万円, 標準的な年利子率=5%

土地の理論価格=_____/_____=2000万円

剰余価値を生まない擬制資本の価値増殖⇒剰余価値の本質の隠蔽